



幸せな贈り物

怒りの時代

‘グローバル アンガー’

Global Anger

世界は今、怒りの時代▲ニューヨークタイムズは「今年一年地球を熱くしている各国のデモは、政党と選挙、労働組合を通してなされた代議政治に対する不信と嫌悪を反映している」として「全世界で既存政党政治に対する信頼が急速に崩れている」と報道しました。ロンドンを燃やしたイギリスの暴動、ばく大な借金政府に腹が立ったギリシャ市民、カトリック国家スペインで起きた法王訪問拒否デモ、公教育現実に怒ったチリのデモ、物価高に耐えれずに飛び出したイスラエル市民、資本主義心臓部のウォール街のデモ…地球を熱くしているデモの土台には「怒り」があります。貿易資本自由化により財貨サービス労働アイディアが速く移動する「世界化」という光が当たる面と、もう一方10年あまりの間、毒きのこのように育った両極化、富の集中、青年失業が呼んだ「怒り」(anger)が地球規模の(global)現象に速く広がっているのです。韓国も例外ではありません。韓国人にも怒りは貧困層や一部の社会不満勢力に限定された話ではありません。富裕層や既得権層も、彼らなりの怒りを表します。若い層でも中年層でも、あるいは老年層でも世代間差ありません。韓国の毎日経済新聞で最近実施した韓国の国民意識調査によれば、2度の経済危機

と14年という歳月は、韓国人の考えと心をまるごと変えたことが明らかになりました。「最優先の国家目標は何であると思いますか」という質問に回答者の中56%が「生活の質の改善」を選びました。1997年4月に実施した質問では回答者の中45.7%が「経済強国進入」を最優先の国家目標だと印をつけたという点を考慮すれば、相当な変化だと見られます。「現在心配しているいちばんの悩みは何ですか」という質問に、衣食住にも困る金銭という答えが何と24.9%に達しました。いままで14年間、韓国GDPは二倍以上、1997年506兆ウォン、昨年1,100兆ウォン増えたのですが、国民はいまだに衣食住の心配から抜け出せないという意味です。「いくら正直に努力しても成功できない」という認識は、つらい挫折感の原因として作用することによって、国全体を怒りの血なまぐさい場所にしています。一方、アメリカ、ニューヨークのウォール街で始まった青年層のデモは「アメリカ人の上位1%が下位90%を合わせたよりさらに多い所得を得ている」「銀行家はうまく行く時は自分の腹を満たし、破産直前に追い込まれれば、政府にばく大な借金だけ消してもらい、国民を失職者にしている」という刺激的なスローガンを中心にアメリカ全域



に拡散しています。デモ隊の攻撃目標は、十数年間、天文学的な収益を上げながら巨額年俸の宴を繰り広げたウォール街の金融資本と高賃金従事者のモラルハザード(倫理観の欠如)に集中している様相です。アメリカ社会が「20対80」の不平等構造を越えて「1対99」という勝者一人占め社会になったという怒りを反映しています。アメリカ政府は、リーマンショック以後、金融会社などを生かすために7,000億ドルを注ぎ込みながら、金融会社が生きてこそ、国民も生きることができると言いました。ところが、国民の税金で生き残ったウォール街の金融会社は、ボーナスだけで200億ドルを分け合うなど「お金の宴」を繰り広げました。反面、2008年以来、国民の生活はますます疲弊していきました。貧富の格差は史上最高水準に達しています。銀行と企業の極端利己主義が世の中の不信と不満を産んでいるのは事実です。銀行はリスク(危険)だけ社会にまわして、利益は一人で取り込まなかったのか、企業は職員を配慮するよりは経営陣と大株主の腹だけ満たさなかったか、よく考えてみるとウォール街のデモ隊は要求しています。

いったい、これほど幸せのためにもがく人間に、絶え間ない怒りと葛藤が起きるのはなぜでしょうか。この前、亡くなったスティーブ・ジョブズは2005年スタンフォード大卒業式でこのように話しました。「偉大なことをする唯一の方法は、みなさんがすることを愛することです。いつもハングリーで、いつも愚かに、一日一日を人生の最後の日のように生きていってください」はたして、私たちの努力がたりないからでしょうか。そうでなければ、人間が知らないまた他の何かがあるのでしょうか。

まことの平安と幸せの時代のために▲ 聖書は、人間のまことの平安と幸せのはじまりをこのように語っています。「しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持つて出ることできません。衣食があれば、それで満足すべきです。金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、

また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。」(テモテへの手紙第一6:6~10)

人間のまことの幸せやまことの平安は、所有する物が多い、少ないことにはないということは、よくご存知でしょう。もちろん、その所有が一時的な快樂や満足感、便利さはもたらずでしょうが、永遠なまことの幸せ、まことの安息、まことの喜びはただ一つだけが可能であるということを知らせるのが聖書です。私たちの人間は、肉的なものだけでは生きられない霊的な存在であり、神様に会ってこそまことの幸せになる、そのような存在として造られました。それで、神様を離れて、願ってもいない罪と呪いと苦しみの中で、サタンに縛られている私たち人間を救ってくださるためにイエス様が来られたのであり、その方は聖書に預言されたとおり、女の子孫として来られて、十字架で死んで復活されることによって、私たちの人生のすべての問題を完全に解決されたのです。そして、だれでもこの事実を信じてその方を主人で受け入れるようになれば、神様の子どもになって、救われるので、まことの幸せを味わうようになるのです。あたかも子どもが家を出て苦勞していたのに、自分の家に戻って休むときに感じる平安のように、道に迷って泣いていた子どもが母親を見つけて、そのふところに抱かれるときに感じる安堵感のように、そのような根源的な幸せです。イエス様が人間にまことの幸せを持ってこられたキリストです。まことの王として来られてサタンのすべての権威を滅ぼされ、まことの預言者として来られて神様に会う道を開いてくださって、まことの祭司として私たちのすべての罪の問題を解決してくださいました。このイエス・キリストを私のキリストとして、私の主人として信じて受け入れるとき、罪人の身分が変わって神様の子どもになって、世の中のなにによっても得ることができなかったまことの幸せが始まるようになるのです。

何事かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというわけではありません。

私たちの資格は神からのものです。(コリント人への手紙第二3:5)

あなたは私の心に喜びを下さいました。それは穀物と新しいぶどう酒が豊かにあるときにもまさっています。平安のうちに私は身を横たえ、すぐ、眠りにつきます。

主よ。あなただけが、私を安らかに住まわせてくださいます。(詩篇4:7-8)

人間に向けた 神様の愛と予定

聖書を見れば、神様がすべてのことを定められたというみことばが出てきます。それが人間の立場では確実な信仰の土台になります。①すべてのことは、神様の御手にあります。神様の主権です。②そして、神様はイエス・キリストを通して人間を救われました。③今でも救われた者には、聖霊でともにおられます。④それで、神様の子どもを聖霊がともにおられる神殿だと言われました。⑤確実な保証で、神様のみことば、聖書をくださったのです。⑥人間の生死、祝福と災いを神様が治めておられるので、救われた者は何の心配もすることがありません。⑦今は私がいるすべての現場で人を生かすのです。それがまことの伝道現場で、宣教現場です。⑧だれがなんと言っても、人間は時限付き人生です。⑨必ず一度は死ぬようになって、その後には永遠な世界があります。人間のたましいは、永遠に消滅しないためです。⑩それで、福音を伝えていのちを生かす伝道の祝福が人生には最も価値あることです。ここに神様は最高の報いを約束されました。

それなら、人間はどんな問題と事件とできごとに出会っても「神様の計画が何か?」といつも質問して、それを通して神様に栄光を帰せば良いのです。すべての問題、事件、人間関係の中には神様の計画が入っています。そして、その計画を成し遂げるようになっていきます。ひとまず、みなさんが心配を捨てて祈るとき、そのときから神様の計画が何か見えるようになります。この目が開いてこそ、その時から行動するのです。

もしかしたら、人々の中では神様の予定と万人の救いに対して混同する方たちがいるかもしれません。私が神様の前に熱心に献身して正しく生きようとするのは人間の正しい行為基準ですが、救いの条件ではありません。私が神様の恵みがとても感謝なので、救済をするのであって、救済をするから救われるのではありません。私が神様の恵みがとても感謝なので熱心にするのであって、熱心になるから救われるのではありません。私が生きてきた道を振り返って見ると、神様が私を呼ばれたのであって、私が神様を選んだものではありません。それなら、私の人生を神様に任せれば良いのです。それで聖書には神様が私を呼ばれたので最後まで守られるというみことばが出てくるのです。熱心以前に明らかなのは、救いはイエス様を信じることによって受けるということです。そして、この信仰も聖霊の働きで信じられるようになるのです。聖霊でなくてはキリストを主と認められないと聖書は語っています。それで、マルティン・ルターは「ただ義人は信仰によって生きる。しかし、信仰で救われようとするれば救われる者はいない。神様の恵みで救われるのだ。プレゼントで信仰をくださったのだ。私たちにできる方法は信仰しかないから、信仰によって救われるのだ。しかし、救いの原因、開始、動機は神様の恵みだ」と告白しました。この神様の恵みが福音を通してみなさんに臨むことをお祈りします。

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタン of 支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかさされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

完全な 愛を 受けてください

男女間の愛は通俗小説の主題でもあり、ポップソングの基本メニューでもあるが、当事者にはそれよりさらに切なる価値を見つけるようにさせる。シェークスピアの喜劇<ロミオとジュリエット>のように、家系の問題に詰まって愛が死で終わる場合でも、この頃人気があるテレビドラマ<王女の男>のように身分の限界を越えることができない危機の愛を見たりもする。

ニュージーランド原住民マオリ族にも、こういう愛の歌があるのだが、民俗村で一番初めて聞かせてくれる<Pokarekare ana>ポカレカレ・アナという民謡だ。この歌には愛の伝説がある。「ロトルア」はマオリ言葉で「2番目の湖」という意味を持っているのだが、湖を中心に彼らはいろいろな部族にわかれ、部族間の利権がからんだ戦争を日常行って、そのうちアリ族とフィスト族の争いが最も激しかった。しかし、運命のいたずらのようにフィスト族の最高の戦士になったツタネカイ（Tutanekai）と、アリ族の酋長の娘であるヒネモア（Hinemoa）が悲劇的な愛に陥るようになり、部族間の深い怨恨も戦争の炎も二人の恋人の美しい愛をさますことはできなかった。二つの部族の長い間の反目で、二人は自由に会うことはできなかったが、ツタネカイは夜になれば湖畔に出て笛を吹いて、その笛の音を聞いたヒネモアがカヌーに乗って湖を渡ってきた。そして明け方になれば必ず握っていたツタネカイの手を離してまた島に帰ったりした。

ヒネモアのお父さんがこの事実を知って火のように怒って、島にあるカヌーをすべて燃やしてしまった。しかし、その日の夜にも笛の音が鳴り広がり、ヒネモアはヒョウタン十個を腰に縛り付けて湖を泳いで恋人ツタネカイのところに行った。命をかけた娘の愛に、結局、お父さんは屈服してしまって、はじめて二人の愛は結ばれた。そして、二つの部族もついに和解するようになったという。彼らの愛を歌ったこの民謡は、朝鮮戦争当時に参加したニュージーランド兵士たちによって韓国にも伝えられて、私たちには「恋歌」という歌で知られている。その歌



イラスト：インケン

本来の歌詞は、

ワイアプの海には暴風が吹いているけれど
あなたが渡ってくるときはその海は静かになるだろう
あなた、私にまた戻ってきて
あまりにもあなたを愛している
私の愛は熱い太陽の下でも決してかわかない
私の愛はいつも私の涙にぬれているためだ
あなた、私にまた戻ってきて
あまりにもあなたを愛している
ワイアプの海には暴風が吹いているけれど
あなたが渡ってくるときはその海は静かになるだろう
あなた、私にまた戻ってきて
あまりにもあなたを愛している
あなた、私にまた戻ってきて
あまりにもあなたを愛している

だれにでも愛は必要だ。男女の愛、家族間の血を分けた愛、友だちとの友情の愛など、しかし、恋人の切ないこと越える神様の愛は、火を通り、水を過ぎる価値より優れたいのちを与えて、いのちを受けることで、十字架の苦しみを与えて恵みで救う驚くべき奥義だ。愛を価値あるようにさせる偉大な力は愛を受けてみた人だけが愛を完成させることができる。神様が命をかけて私に來られた完全な愛を受ける人はまさにあなたです。

チョン・ヒョングク（福音コラムニスト）

* 相談したい方はこちらまでどうぞ